

坂の下を歩くと、延命寺坂、会所坂、足袋屋坂、鍛冶屋坂と坂の上に向かって小道がみえます。昔はこの小道沿いに寺、会所、店等が並び、旅人が利用したことが空想されます。

一番、西側の八幡坂を登ると新田義貞が創建と伝わる金龍寺の立派なお堂にでます。参拝後、門前を進むと水戸街道にでます。



(巻末に金龍時に関する昔話を龍ヶ崎観光物産協会 HP から引用記載してます)

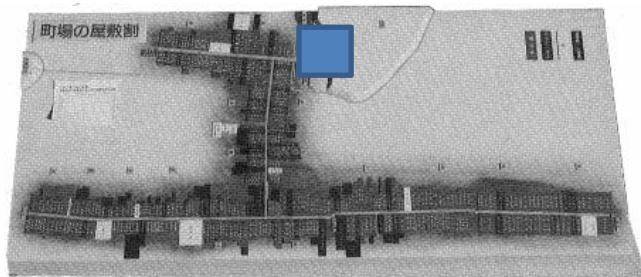
星宮神社を過ぎ、若柴団地の入口で水戸街道とはお別れで、団地への坂道を登り、右折し稀勢の里（萩原寛）の母校長山中学の横を通り、鉄塔の横から蛇沼風致公園の遊歩道に入ります。遊歩道を2 km程進むと、北竜台公園に着きトイレ休憩です。ここでコロッケの注文をとりました。

米粉コロッケ（米粉クリーム、レンコン、マイタケ入り）	8個
手作り山芋和風コロッケ	16個
手作り愛情コロッケ（じゃがいも）	10個

早速、服部精肉店に電話、12時に揚げたてをお願いしました。中根台の団地内の遊歩道を通り行部内公園で再びトイレ休憩後、龍ヶ崎第一高等学校前を経由して般若寺の枝垂桜の前で記念撮影。桜の満開の時にもう一度来てみたいですね。



般若時を出て、撞舞通りです。
 この通りは7月最終日曜日に八坂神社祇園祭の撞舞(つくまい)で賑わいます。
 この通りの東端に仙台伊達藩龍ヶ崎陣屋跡があります。今は小学校の校庭
 なので面影はありませんが、入口に案内看板があります。



天和元年町場の屋敷割復元模型 (龍ヶ崎市歴史民俗資料館常設展示)



上図の青色の部分 が陣屋でそこから東西に撞舞通りがあり、エ型に町屋
 が並んでいたそうです。
 この陣屋は仙台伊達藩の江戸屋敷の運営費を賄うため関東のこの地に
 約1万石の領地をもらっていました。その内、龍ヶ崎村は1200石程ですが
 ここに陣屋を設け領地を管理していました。
 信太郡 5300石 河内郡 3500石

いよいよ、本日、二番目の目的 龍ヶ崎 コロッケ

2000年に市街地活性化策として公立のまんが図書館「センターまいん」が開設され、子供の利用者が多くいたため、大人になっても思い出として残る物として、商工会女性部が考えた「まいんコロッケ」が始まりです。龍ヶ崎市は2013年からは「全国コロッケフェスティバル」を開催。さらに、2014年にインターネット上で開催された「ご当地メシ決定戦」にて優勝したことが「龍ヶ崎とコロッケ」を不動の地位にしました。この決定戦では茨城県内では水戸市の「スタミナラーメン」、関東ブロックでは「宇都宮餃子」、決勝戦では北海道「ジンギスカン」、東海「味噌煮込みうどん」、四国「さぬきうどん」、九州「チキン南蛮」を破り堂々の一位になり優勝しています。

さて、ウンチクはさておき、予定の12時に10分遅れで服部精肉店に到着、到着前にはおかみさんが店の前で来るのを待っていて下さって、姿がみえたら、早速コロッケを揚げてくれていました。店の前で出来立てのアツアツのコロッケを頂き、皆さん大満足でした。皮がカリカリ、中はジュウシーで絶妙な感触です。お支払いは地元のK大先輩のおごりでした。ご馳走さまでした。



お腹も元気になり、13kmゴールの竜ヶ崎駅にむかいます。
途中で龍ヶ崎の富豪で町長も務めた「諸岡良佐・子 良夫」の自宅の赤レンガ門が移設されて保存されているので見学をしました。
元々は竜ヶ崎駅近くにあったものを保存のため移設したそうです。
見学後、竜ヶ崎駅に到着、お昼休憩です。
13km参加者はご苦労様でした。



昼食後、午後の部スタートです。雲が多くなり、風が強くなってきました。
小貝川の堤防を目指します、暫くは交通量の多い道路の歩道歩きとなります。
長沖新田の信号を右折し歩道のない道を気を付けて進み沖須橋を渡ると小貝川の堤防が見えてきました。
小貝川の左岸に到着、土手の道路に登ると向かい風の強風です。



川の中に3羽の白鳥がいますが、ゆっくり観察も出来ず進みその先で風を避けるため、堤防の下の道路に降りますがあまりかわりません、皆さんもくもくと歩みを進めます。
何故か何時ものパターンで歩く速度が上がります。風が強いのに？
無事、15時にスタート地点の龍ヶ崎市駅に到着しました。
皆さん、ご苦労様でした。

以上 記 松崎 寛

わら干し観音（わらぼしかんのん）

新田義貞（にったよしさだ）が敵に追われてこの地まで来たとき、農家の娘がわらを干していました。

見ると、その娘がしきりに義貞を招くので、追われている彼はこれ幸いと、娘の干しているわらの中に身をひそめました。

追補（ついほ）の敵兵はそこに義貞が隠れているとは知らずに通り過ぎて行きました。義貞がもう大丈夫とわらの中から首を出してそっとのぞくと、そこにいたはずの娘の姿がありません。すでに煙のように消え失せていたのです。

危ないところを救われた義貞は「これぞかぶとの中に入れておいた観音像の守護によるもの」として、金竜寺にその像を納め、厚くまつりました。

これが「わら干し観音」の由来です。

牛になった小坊主（こぼうず）

食って寝てばかりいると人は牛になると言われていますね。

金竜寺のあるなまけ者の小坊主は、毎日の勤行（ごんぎょう）を怠ってゴロゴロ寝てばかり。

とうとう小坊主は本当に牛になってしまいました。

初めて恥を知った小坊主は、沼に入水（じゅすい）しようと決心して岸へ向かいました。しかし寺の住職は小坊主に同情し入水を止めようとして、水の中に入る牛のしっぽを握り引き戻そうとしました。

ところが、しっぽはぶつりと切れてしまったのです。

牛はそのまま水底に沈んでしまいました。

がっかりした住職は、手に残されたしっぽで払子（ほっす）を作りました。

その払子は、今も寺宝として保管されています。

牛になった小坊主が入ろうとした沼が牛久沼です。実はこの伝説から「牛食う沼」→「牛久沼」となったという説があります。